

# 博物館と学校教育の連携

— 体験的学習の場としての博物館事業を中心として —

渡 辺 勤

## 1. はじめに

午前9時。2台の自転車が玄関前に現れた。「土曜おもしろ博物館」の準備もままならないうちに、いつもの元気な声が聞こえたきた。

「また来たよ」

「今日の問題は難しいぞー」

「平気だよ」

などと会話を交わした後、姉妹はワークシートを持って展示室へ入って行った。

そして、約40分後、「できたよぉー」と戻ってきた。結果は4回目の「古墳博士」。

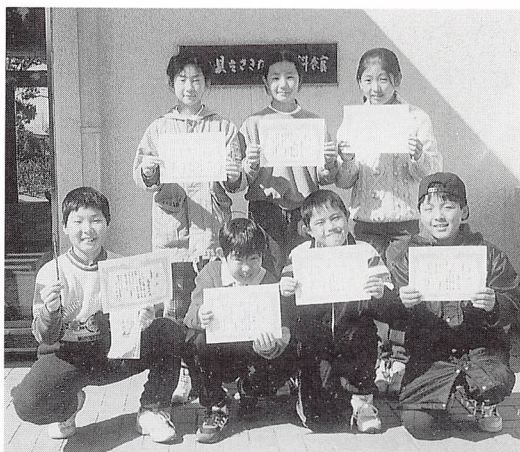


写真1 「古墳博士」となった子どもたち

これは、1月27日に実施した「土曜おもしろ博物館」の一場面である。「縄を作ろう」「綿くりをしよう」にも参加した2人（地元の小学校6年生と中学校2年生）は、毎月の第4土曜日を楽しみにしているいわゆる「常連」であり、自ら学ぼうとする意欲に満ち溢れており、当館は2人の主体的な学習の場となっている。

生涯学習時代を迎えた今日、激しい変化が予想される21世紀を心豊かでたくましく生きることのできる人間の育成を目指し、教育改革が進められている。生涯学習の基礎づくりの場としての学校教育には、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、新しい学力観に立った教育活動の展開が強く求められている。とりわけ実物資料を見たり、触れたり、操作したりする体験的な学習が重視されている。

学校はもちろんのこと、家庭、地域社会は、互いに連携し合いながら、そうした体験的な学習の場を提供するとともに、子どもたちの主体的な学習を支援できる場として機能していかなければならない。

学習指導要領の指導計画の作成と内容の取り扱いに、

### ・小学校社会科

「指導計画の作成に当たっては、博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い、それに基づく表現活動が行われるよう配慮する必要がある」（小学校学習指導要領）

### ・中学校社会科

「日本人の生活や生活に根ざした文化については、各時代の政治や社会の動き及び各地域の

地理的条件、身近な歴史とも関連づけて指導するとともに、博物館や郷土資料館等を活用した文化財の見学・調査を通じて、生活文化の発展を具体的に学ぶことができるようにする」  
(中学校学習指導要領)

と明示されている。また、博物館法第3条第2項に、「博物館は、(中略)学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない」とあり、さらに生涯学習審議会も「……各々の施設がその特色を生かして……子供にとってより親しみやすい、魅力ある場所となるよう努める必要がある」と指摘しており、生涯学習を推進する社会教育施設に寄せられる期待は大きい。

これからの博物館にとって、学校教育との連携を図り、体験学習を中心とした教育普及活動をいかに充実させていくかが大きな役割であることはいうまでもない。

そこで、当館では子どもたちに広く豊かな体験の場、学習の場を提供すべく様々な教育普及事業に取り組んでいる。ここでは、当館の教育普及事業の実践を、体験的な学習を中心として、学校教育(特に社会科)との関わりからみていくこととする。

## 2. 土曜おもしろ博物館

「土曜おもしろ博物館」は、学校週5日制の施行に伴い、県立博物館等7館が平成4年9月より実施している事業である。

当館においては、当初より「実感!古墳探検」をテーマとして、埼玉古墳群、考古展示室、民俗展示室及び移築民家に関するワークシートを参加者に配布し、見学しながら解答してもらう形式をとってきた。問題を初・中・上級に分け、参加者には国宝金錯銘鉄剣の銘文を象った特製の鉛筆を贈ってきた。

学校週5日制が月2回に拡大された本年度は、「土曜おもしろ博物館」を貴重な体験学習の場としてとらえ、今までのワークシートに加え、埼玉古墳群のオリエンテーリング、さらには民俗体験学習を加え一層の充実を図った(表1)。

表1 《平成7年度土曜おもしろ博物館》

回	実施日	時間	テーマ	内容	場所
1	4月22日(土)	9:00~16:30 (受付は15:30まで)	実感!古墳探検	資料館内の展示物を参考に、ワークシート(初級・中級・上級)に答える。	さきたま資料館 移築民家旧遠藤家
2	5月27日(土)	10:00~12:00 13:30~15:30	実感!古墳探検 (オリエンテーリング)	さきたま古墳公園及び資料館において、問題を解きながらオリエンテーリングをする。	さきたま古墳公園 さきたま資料館
3	6月24日(土)	9:00~16:30 (受付は15:30まで)	実感!古墳探検	資料館内の展示物を参考に、ワークシート(初級・中級・上級)に答える。	さきたま資料館 移築民家旧遠藤家
4	7月22日(土)	10:00~12:00 13:30~15:30	実感!古墳探検 (オリエンテーリング)	さきたま古墳公園及び資料館において、問題を解きながらオリエンテーリングをする。	さきたま古墳公園 さきたま資料館
5	10月28日(土)	10:00~12:00 13:00~15:00	縄を作ろう	薬うちをし、縄をなう。	移築民家旧遠藤家
6	11月25日(土)	10:00~12:00 13:00~15:00	綿くりをしよう	綿くりをする。	移築民家旧遠藤家
7	1月27日(土)	9:00~16:30 (受付は15:30まで)	実感!古墳探検	埼玉古墳群及び資料館内の展示物を参考に、ワークシートに答える。	さきたま古墳公園 さきたま資料館 移築民家旧遠藤家
8	2月24日(土)	10:00~12:00 13:30~15:30	実感!古墳探検 (オリエンテーリング)	さきたま古墳公園及び資料館において、問題を解きながらオリエンテーリングをする。	さきたま古墳公園 さきたま資料館
9	3月23日(土)	10:00~12:00 13:30~15:30	実感!古墳探検 (オリエンテーリング)	さきたま古墳公園及び資料館において、問題を解きながらオリエンテーリングをする。	さきたま古墳公園 さきたま資料館

(1) 「実感！古墳探検オリエンテーリング」

これは、豊かな自然に包まれたさきたま風土記の丘をオリエンテーリングしながら埼玉古墳群や当資料館の展示物に関する問題を解き、解答シート（図2）をうめ、隠されたキーワードを当てるといふかたちで行った。解答シートや各地点での指示（写真2，図3）にしたがってオリエンテーリングし、キーワードを当てた子どもたちには、「古墳博士」（図1）の称号と鉄剣鉛筆を授与した。（写真1）

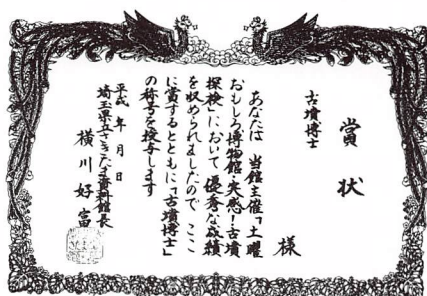


図1 「古墳博士」の賞状

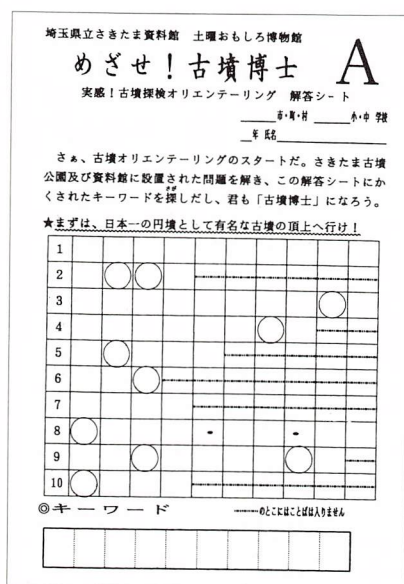


図2 解答シート

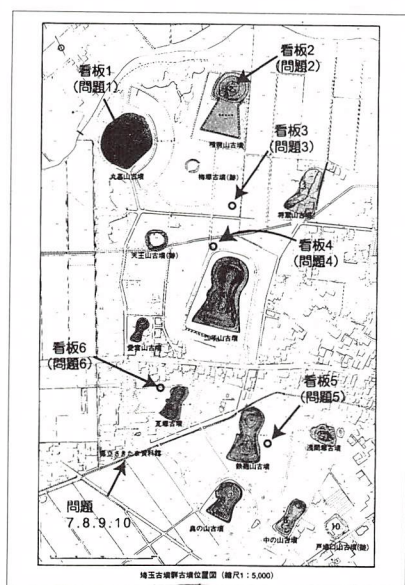


図3 問題看板設置場所



写真2 問題看板

この古墳探検オリエンテーリングに参加した子どもたち（写真3）は、

「いろいろな古墳を実際に見られてよかった」

「歩いて運動になったし、勉強もできてよかった」

「さきたま古墳群のことがよく分かった」

「学校でやっているところなので、勉強になった」

などの感想を述べていた。そして、「古墳博士」として賞状を受け取る子供たちの嬉しそうな表情はなんともいえずよかった。



写真3 オリエンテーリングをする子どもたち

実際に自分の足で歩くことによって、古墳のかたち、大きさ、埼玉古墳群の広さ等を身をもって実感したり、古墳やその出土品を目の前にして、それらに関する具体的な問題に取り組むことによって、小学校社会科第6学年の内容(1)のイ、「遺跡や遺物などを調べて、……大和朝廷による国土の統一の様子について理解すること」（小学校学習指導要領）や中学校歴史的分野の内容(2)のア、「国の成り立ちと東アジアの動き」の「古墳文化と大和朝廷による国の統一を扱い……」（中学校学習指導要領）の学習をより深めるとともに、歴史に対する興味、関心を一層促進することができたと確信している。

## (2) 民俗体験学習

当館の民俗展示室で展示している「北武蔵野農具」(1640点)と同様の農具を使用し、次の2点に取り組んでみた。

- ・「縄を作ろう」(10月28日実施)
- ・「綿くりをしよう」(11月25日実施)

「縄を作ろう」では、次の体験を行った。

- ・藁すぐり…ワラスグリを使って藁すぐりをする(写真4)
- ・藁打ち……ワラウチを使って藁打ちをする(写真5)  
ワラウチ機を使って藁打ちをする(写真6)
- ・縄を作る…藁打ちした藁で縄をなう(写真7)
- ・自分で作った縄で縄跳びをする

また、「綿くりをしよう」では、次の体験を行った。

- ・綿摘み……綿の木から綿を摘む
- ・綿くり……ワタクリを使って綿くりをする(写真8)
- ・糸巻き……ザグリ使って糸巻きをする(写真9)

「縄を作ろう」に参加した子供たちは、縄をなう体験から、その難しさを身をもって体験するとともに、苦勞しながらも縄をなえるようになったときの喜びを実感するとともに、昔の人の知恵と器用さに感心させられたようである。そして、自分たちで作った縄で縄跳びをしてみたが、その姿は、嬉しさを体中で表現していた。

また、「綿くりをしよう」では、タワクリやザグリの工夫された道具に感心したようである。自分の手だけではなかなか取り出せない綿の種をいとも簡単に取り出してしまうワタクリ、4枚の歯車を効果的に組み合わせ勢よく回り糸を巻き付けるザグリに、やはり昔の人々の知恵を感じずにはいられなかったようである。子供たちは、こうした体験の中から、かつての農家のくらしを実感したのではないだろうか。

こうした体験的な学習は、小学校社会科第3学年の内容(5)「……地域の人々の生活について、家屋や道具、交通の移り変わりを調べたり……」(小学校学習指導要領)の学習に効果的であると考える。



写真8 ワタクリで綿くりをする



写真4 ワラスグリで藁すぐりをする

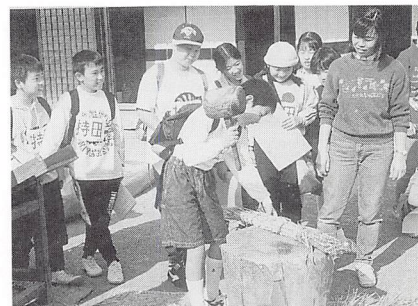


写真5 ワラウチで藁打ちをする

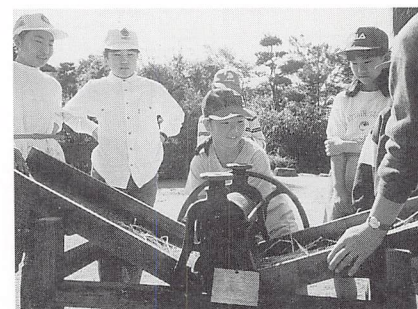


写真6 ワラウチ機で藁打ちをする



写真7 藁で縄をなう

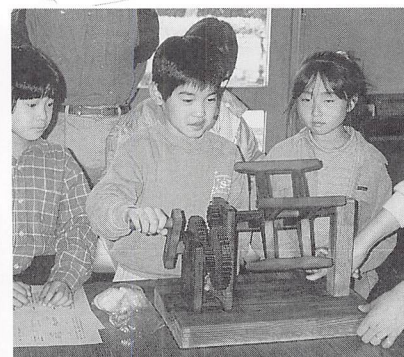


写真9 ザグリで糸巻きをする

## 2. 民俗季節展「さきたまの年中行事」「農家の四季」

「土曜おもしろ博物館」で実施した民俗体験学習は、その他にも様々な民俗資料を使って可能である。

当館では、民俗季節展として「農家の四季」及び「さきたまの年中行事」を昭和60年度より実施している。ここでは、民俗季節展にかかわる体験的な学習について紹介してみたい。

### (1) 「さきたまの年中行事」

小学校社会科第3学年の内容(5)に、「……地域の文化財や年中行事に関心を持ち、人々の願いについて考えることができるようにする」(小学校学習指導要領)とある。これは、「地域に継承されている文化財や年中行事を取り上げることによって、自分たちの生活の歴史的背景に関心を持たせ、地域の成員としての自覚を育てることをねらいとしている」(小学校指導書社会編)。また、中学校の歴史的分野においても、内容(6)のイ「新しい学問・思想と地方の生活文化」に「……教育・文化の広がりや地方の生活文化について理解させる」(中学校学習指導要領)とあり、「身近な地域の生活に根ざした衣・食・住、年中行事、祭礼などを通して見ていくようにする」(中学校指導書社会編)とされている。

地域の年中行事は、地域住民の生産活動と大きくかかわっており、そこには人々の願いが込められている。社会の変化とともに我が国の伝統的な文化とのかかわりが稀薄になってきた今日、衰退傾向をたどってはいるが、時代や生活とともに変化しかつ継承されてきた地域の年中行事を教材化し、体験的な学習として組み入れることは、極めて有意義なことであり、国際理解教育の推進の面からも効果的であると考えられる。

当館の民俗季節展「さきたまの年中行事」は、行田市埼玉地域に伝わる行事をテーマに、移築民家旧遠藤家を展示場所として開催している。本年度の実施内容は表2のとおりである。

この「さきたまの年中行事」を機に様々な体験的な学習が考えられる。例えば、当館で実施している「七夕馬作り」もその一つである。8月5日、暑い中ではあるが移築民家旧遠藤家の土間でイネ科の多年草真菰を材料とし(そのため「マコモ馬」ともいう)、実際に七夕馬作りを体験してもらった(写真10, 11)。七夕飾りとして飾られる七夕馬は、雌雄二頭を向かい合わせて飾り、行事が終わると、火災除けになるといって屋根に放り上げたり、洪水の時に救ってくれるとあって天井の梁に縛り付けておいたりした。また、節分には福豆を移築民家旧遠藤家に用意し、鬼を追い出し、福を呼び込むといわれる豆撒きを自由に体験してもらっている。

そうした昔の人々の思いや願いを考えながら地域の年中行事を体験することに、教材としての大きな意味があるものと考えている。なお、その他の年中行事において可能な体験的な学習については、表2を参照にしていきたい。

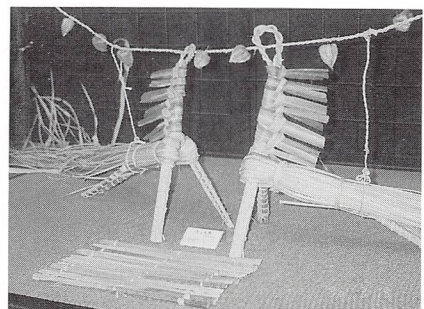


写真10 七夕馬



写真11 七夕馬作り

表2 《さきたまの年中行事》

名 称	期 間	展 示 内 容	体 験 的 な 学 習
①端午の節供	4月20日 ～5月5日	子供たちのたくましい成長を願って、庭先に勇壮な鯉幟や武者幟を立てる。また、香りの強い菖蒲や蓬を軒先に挿し、魔物や疫病を遠ざけ家族の健康を願う。	・見学、調査。 ・鯉幟や武者幟を作る。 ・菖蒲や蓬を摘み、軒先に挿す。
②サナブリ	6月24日 ～7月2日	室内に祀ってあるコウジン様に7株の苗を供える。その際、お神酒、赤飯、ボタ餅なども供え、田植え終了を祝う。	・見学、調査。 ・田植えをする。 ・供え物を作る。
③七夕	7月28日 ～8月8日	短冊に願ごとなどを書いて笹竹に吊し、庭先に立てる。また、「魔除けの馬」とか「洪水のときに救ってくれる」といわれる七夕馬（真菰で作った雌と雄の馬）も飾り、七夕が終わると家のトバクチ（入口）に吊り下げておく。	・見学、調査。 ・短冊を書き、笹竹作りを作る。 ・七夕馬を作る。
④お盆	8月1日 ～8月15日	座敷に盆棚を作って、お盆の行事を紹介する。	・見学、調査。 ・ナスやキュウリで馬等を作る。
⑤十五夜	9月1日 ～9月9日	縁側に、団子・栗・柿・薄などをお供えして、十五夜の行事を紹介する。	・見学、調査。 ・薄を摘み、供え物を作る。
⑥えびす講	11月11日 ～11月23日	えびす様・大黒様を帳場に並べ、お灯明、新米の御飯、里芋のケンチン汁、尾頭付きの生サンマ、お神酒をお供えし、五穀豊穡、商売繁盛を祈る。	・見学、調査。 ・ケンチン汁等を作る。
⑦メカイ節供	11月28日 ～12月8日	軒先にメカイ（目籠）を提げて、多くの目を持つオニ（繭玉）団子を追い払う。	・見学、調査。 ・メカイを掲げる。
⑧小正月	1月10日 ～1月15日	土間等に小正月の飾り物であるケズリバナやマユダマ（繭玉）団子などを飾る。	・見学、調査。 ・マユダマ団子を作り、木に飾り付ける。
⑨節分	1月27日 ～2月4日	神棚には福豆を供えて、豆まきをし、鬼を追い出し、福を呼び込む。また、トバクチにヒイラギを添えたイワシの頭を飾り、厄除けにする。	・見学、調査。 ・豆まきをする。 ・飾り物を作る。
⑩雛祭り	2月24日 ～3月3日	座敷に内裏雛を飾り、蓬の菱餅や桃の花を供え、女の子の成長を祝う。	・見学、調査。 ・折り紙で内裏雛を作る。

備考 (1) 展示場所はすべて移築民家旧遠藤家。また、期間は平成7年度の展示期間である。

(2) 体験的な学習の「見学、調査」には、「さきたまの年中行事展」の見学、当館学芸員や各行事の保存に取り組んでいる地域の人々からの聞き取り調査など考えられる。

## (2) 「農家の四季」

「農家の四季」は、行田市周辺で行われてきた稲作をテーマに、四季折々の農作業に合わせて春、夏、秋、冬と年4回実施しているもので、機械化以前の農具（重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」）を中心として、写真パネル、実物資料などを展示している（表3・写真12）。この機会にも、体験の場を提供している。具体的には、展示品の中に自由に触ったり、操作できる農具を移築民家旧遠藤家に用意したり、「冬の農家」においては、農閑期の仕事として「わらじ作り」（写真13）（本年度は3月9日に実施）も開催している。

この「農家の四季」は、前述の小学校社会科第3学年の内容(5)や第5学年の内容(1)の「……産業に従事している人々が生産を高める工夫をしていることを理解できるようにする……」（小学校学習指導要領）、さらには小学校第6学年の

歴史学習や中学校の歴史的分野の学習における教材として活用できる。とくに江戸時代の農業技術の発達などによる農業生産の増大についての理解を深める上で、体を通して学ぶという点からも効果的であるといえる。

なお、当館所蔵で使用可能な民俗資料（農具）には次のものがある。

ナエカツギカゴ、ナエトリコシカケ、タコロガシ、ノコギリガマ、センバコキ、アシブミダッコクキ（ガーコン）、トウミ、マンゴク、ショイカゴ、クルリボウ、ワタクリ、イトクリ、ザグリ、野良着の着用など

表3 《農家の四季》

名称	期間	展示目的	写真・解説パネル	実物資料	体験資料
①春の農家	4月18日 ～6月4日	機械を使うようになる前の田植えの様子を紹介する。	苗代作り、田起こし 苗取り、田植え、 みなくち 水口祭り	苗、 ナエトリコシカケ	ナエカツギカゴ ナエトリコシカケ
②夏の農家	7月18日 ～8月27日	田の草取りの用具を展示して夏の農家の仕事を紹介する。	草取り、精霊迎え	タコロガシ、 ムギワラボウシ	タコロガシ
③秋の農家	10月3日 ～11月23日	秋の農家の重要な仕事である収穫作業について紹介する。	湿田での稲刈り、 はさ 稲架かけ、粃すり	イネカリガマ、 タブネ、タゲタ、 かかし 案山子	トウミ
④冬の農家	2月6日 ～3月10日	農閑期の仕事であるワラジ作りやムシロ織りなどの作業を紹介する。	ムシロ編み、 ワラジ編み、 小正月	ワラウチ、ウス、 ワラジアミダイ	ワラウチ

備考 (1) 写真・解説パネル、実物資料は民俗展示室に展示。体験資料は移築民家旧遠藤家の土間に展示し、自由に体験できるようにしている。なお、期間は平成7年度の展示期間である。

(2) 写真・解説パネル、体験資料については、展示期間中でなければ貸し出し可能である。



写真12 夏の農家



写真13 わらじ作り

### 3 「さきたま風土記の丘教室」

「さきたま風土記の丘教室」は、昭和59年10月に県民一般を対象とし、埼玉古墳群を中心とした古墳文化と北武蔵地域を中心とした民俗に関する基礎的な知識と理解を深めることを目的として始められた。2年目より開催時期を夏休みとし、親子で参加できる教室として定着していった。また、本年度で12回を数えるが、当初から組み入れられた埴輪作りをはじめ、発掘体験や古墳の歩測、埼玉古墳群の見学など体験的な学習に重点をおいて実施してきた（表4）。

この「さきたま風土記の丘教室」は、小学校第6学年や中学校の歴史的分野の「古墳文化」について体験的に学習することができるものであり、講義を含め学校での学習をより深めたり、これから「古墳文化」を学習する子どもたちにとっては、「古墳文化」のみならず歴史学習に興味関心をもたせる意味でも効果的な場であるといえる。

ところで、今年度は「埴輪を作ろう」（7月25日、26日、8月8日）に「勾玉を作ろう」（8月25日、26日）を加え2部構成とし、講義と実習を行った。また、当館オリジナルの寸劇「さきたま物語ー古墳ができるまでー」を演じ、「古墳文化」についての理解を求めてみた。

#### (1) 第1部「はにわを作ろう」

「埴輪を作ろう」（90人参加）では、埴輪に関する講義（「埴輪とは何か」「古墳とは何か」「埴輪の形」「埴輪の並べ方」など）の後、行田市の「はにわの館」の協力を得て、形象埴輪（人物埴輪）の製作に取り組んだ。子どもたちは、1kgの粘土を前に悪戦苦闘しながらも親子で思い思いに工夫を凝らした埴輪を製作していた（写真14、15）。

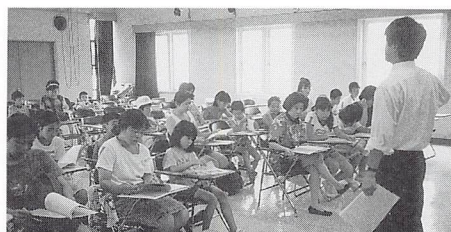


写真14 講義を聞く参加者



写真15 埴輪作りに挑戦

表4 《さきたま風土記の丘教室の内容》

年 度	内 容
昭和59	講 義 「埴輪について」 実 習 「埴輪づくり」
昭和60	講 義 「稲荷山古墳と鉄剣」 「金錯銘鉄剣について」 「古墳時代の甲冑について」 「古墳時代の弓矢について」 「夏の農家」
昭和61	講 義 「埴輪の出現と消滅」 「埴輪のできるまで」 「埼玉の埴輪」 「埴輪のまつり」 実 習 「埴輪づくり(1)つくる」 「埴輪づくり(2)焼く」
昭和62	講 義 「金錯銘鉄剣の謎を探る」 実 習 「埴輪を作ろう(1)(2)」
昭和63	講 義 「埴輪について」 実 習 「埴輪を作ろう(1)(2)」
平成元	講 義 「埴輪について」 実 習 「埴輪を作ろう(1)(2)」
平成2	講 義 「埴輪について」 実 習 「埴輪を作ろう(1)(2)」
平成3	講 義 「古墳とは何か」 「稲荷山古墳と国宝の鉄剣」 鑑 賞 映画「さわやか物語」 実 習 「発掘体験」（瓦塚古墳外堀）
平成4	講 義 「古墳とは何か」 実 習 「発掘体験」（将軍山古墳内堀） 学習会 「埼玉古墳群と将軍山古墳の見学」
平成5	講 義 「古墳を探検する」 実 習 「古墳を測ろう」（古墳の歩測）
平成6	講 義 「埴輪の謎を探る」 実 習 「埴輪を作ろう」
平成7	講 義 「埼玉古墳群と埴輪」 「勾玉の歴史と作り方」 実 習 「埴輪を作ろう(1)(2)」 「勾玉を作ろう」 鑑 賞 寸劇「さきたま物語」

備考 「埴輪を作ろう」の(1)は埴輪の製作、  
(2)は埴輪焼き



1時間半から2時間後、自分の手で作った埴輪を目前にして、子どもたちの表情は皆満足げであった。

また、今年は希望者のみ埴輪の野焼きも行った(写真16)。割らずに焼き上げることができるか不安であったが、すべての埴輪が見事に焼け、野焼きならではの味のある埴輪ができあがった。

終了後のアンケート(表5)に「昔の人の苦労が分かった」と答える子どもたちもおり、まさに身をもって体験したからこそ発せられる貴重なことばが得られた。この埴輪作りは、次に述べる勾玉作りも同様であるが、古代の人々が埴輪に込めた願いを考えながら作るという点に大きな意味があるものとする。



写真16 埴輪の野焼きに挑戦

## (2) 第2部「まが玉を作ろう」

「県の旗まが玉十六心の輪」とさいたま郷土かるたにも詠まれている勾玉作りに193人の親子が参加した。第1部同様に勾玉に関する講義(「勾玉の歴史(形や材質、用途など)

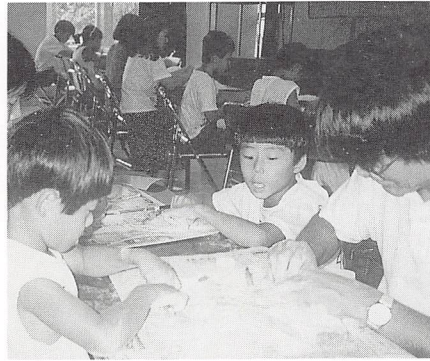


写真17 勾玉作りに挑戦

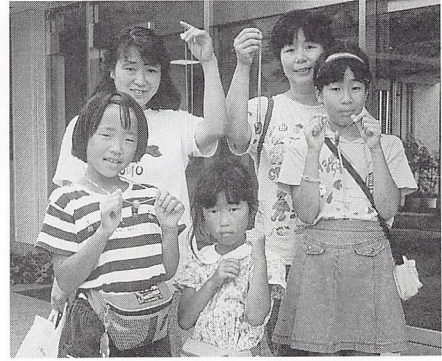


写真18 勾玉を持って記念撮影

や「勾玉の作り方」の後、材料として滑石を用い勾玉作りを行った。手順としては、紙やすりで削り、磨き、ドリルで孔を開け、紐を通し、ニス塗り、首飾りとした(写真17,18)。当館としても初めての試みであり不安な点も多々あったが、滑石の粉で真っ白になりながらも子供たちの目は輝いており、自分で作ったまが玉を首飾りにして記念撮影する子どもたちはとにかく嬉しそうであった。

## 《寸劇「さきたま物語 — 古墳ができるまで —」》

さらに、今年は埼玉古墳群についての理解をより深めていただこうと、瓦塚古墳の中堤を舞台として、寸劇「さきたま物語—古墳のできるまで—」を上演してみた。さきたまの豪族ヲワケが大和から帰ってきたところから、戦争で死んで古墳が造られるまでを演じてみた(写真19~24)。真夏の太陽が容赦なく照り付ける暑い中、思いがけない「お芝居」に子どもは大喜びだったようだ。父母の多くの方々から「暑い中ありがとう」とのお声をいただき、出演者も充実感で一杯であった。子どもたちは、単に文字だけではなく、またことばだけでもなく、動きのある劇を見ることによって、埼玉古墳群についての理解をより深めることになったことはもちろんのこと、歴史に対する興味関心をより一層強くもってくれたことと考えている。

小・中学校の社会科の授業において、体験的な学習の一手法として、ロール・プレイング的手法を取り入れた授業がさかんに行われるようになってきている。映像社会に生きる子どもたちが、寸劇であれ、実際に動きのある劇を目にすることは、当時の社会に身をおくことにもなり、より直接

的に歴史を学べるものとする。今後も子どもたちがタイムトリップできるような場を用意したいものである。

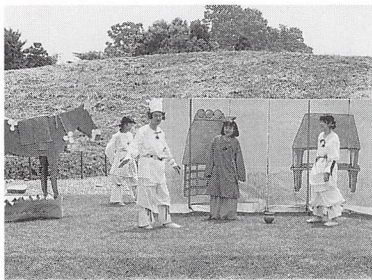


写真19 ヲワケが大和から帰る



写真20 戦うヲワケ、不覚にも殺される

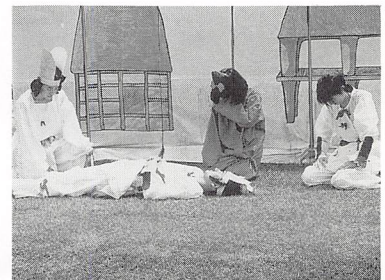


写真21 ヲワケの死を嘆き悲しむ家族

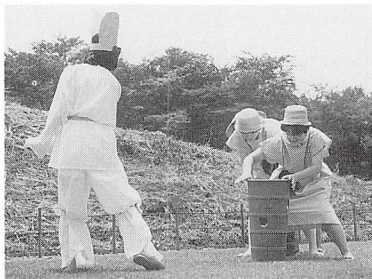


写真22 武蔵国最大の古墳が造られる

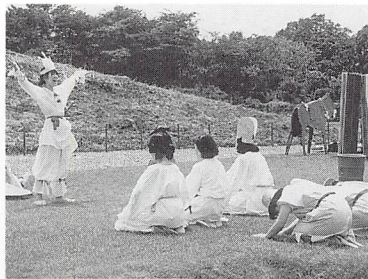


写真23 ヲワケの息子が権力を継承する



写真24 テーマソングを歌う出演者たち

なお、今年度の「風土記の丘教室」に参加した子供たちの感想は表5の通りである。父母の方々からも「親子でいい体験ができました」との感想をいただいた。今後も創意工夫を凝らし、子どもたちが充実感、成就感を味わえる体験的な学習を組み込んだ「風土記の丘教室」に取り組んでいきたいと考えている。

表5 《「風土記の丘教室」参加者の声》

## 5. おわりに

以上、当館の教育普及事業の中から、小中学校の社会科に関連した体験的な学習について実践をもとに述べてきた。

子どもたちにとって、「見学したり調べたり」する体験的な学習に主体的に取り組むこと自体が、自らを心豊かに成長させていくプロセスであり、学習内容そのものであると考える。自から意欲的に学ぶ態度や思考力、判断力、表現力といった新しい学力観に立つ教育の推進のためには、博物館施設も学校教育との連携を密にし、そうした「体験の場」づくりに取り組んでいかなければならない。生涯学習社会を迎えた今日、「博学連携」が叫ばれる中、博物館施設の果たすべき役割は極めて重要である。

冒頭で紹介した「常連」の姉妹は、当館を自らの「学びの場」としてしてくれているに違いない。この「さきたま」から一人でも多くの子どもたちが「学びの場」を見出せるよう努力していきたいものである。

寸劇「さきたま物語」を見て		埴輪を作って		勾玉を作って	
①楽しかった	40人	①楽しかった	22人	①楽しかった	37人
②勉強になった	6人	②むずかしかった	16人	②むずかしかった	27人
③暑くて大変だった	5人	③よくできた	5人	③作れてよかった	11人
④クイズや歌がよかった	3人	④古代人の苦労が分かった	4人	④よくできた	6人
④工夫してあってよかった	3人	④また作りたい	4人	④色がきれい	6人
	3人	④疲れた	4人	⑥古代人の苦労が分かった	4人
④分かりやすかった	3人				